

☆ 高校2年生 洗足祭で大活躍しました ☆

9月12日、13日に洗足祭が行われ、2日間合計で約1万7千人の来場者をお迎えしました。高校2年生は、各クラス企画を運営すると同時に、洗足祭実行委員や生徒会、部活動の最高学年としても活躍し、今年の洗足祭を中心となって作り上げました。ここでは、生徒の感想文を紹介します。



4年ぶりにHR計画委員として文化祭に携わり、久々に行事に積極的に参加することができました。中1の頃にHR計画委員長をやった経験があまりに苦い思い出だったので、二度とやるものか、と心に決めていて、高2の最初の係決めで成り行き上HR計画委員になってしまった時には、嫌すぎてどうしようかと思いました。飲食団体は6クラス中4クラスしかできないと決まっているので、もし私のせいで飲食を逃したらクラスみんなの文化祭へのやる気を失わせてしまうのではないかと、思いヒヤヒヤしつつ計画委員2人で話し合いを重ねて企画書を提出しました。企画が通ったことは本当に嬉しかったし、話し合いにも積極的に参加してくれたクラスの皆と一緒に喜んでくれていたのも、とても嬉しかったです。一生懸命考えた企画が通り、達成感が得られたこの時くらいから、久々にHR計画委員としてクラスの文化祭の中心となれたことも良かったのではないかと、思い直すことができ、より意欲も湧いてきました。当日必要なものの注文やシフト決め、予算決め、など大変なことがたくさんありながらもなんとか文化祭を迎えることができました。

私たち高2Aは『どっちがAの？～俺の豚汁VS私のミネストローネ～』をテーマに豚汁とミネストローネを対決形式で売るという企画を行い、朝一で大量のスープを短時間で作る必要があったので本当に大変でした。1日目は人数も少なかったうえに、慣れていなかったので時間がかかってしまいましたが、2日目は1日目に具材を切ってくれた子が中心となって効率よく行うことができ、クラスの団結と協力を身にしみて感じました。初めはなかなか売れなかったり、シフトが少なかったり、会計が合わなかったり…とトラブルも多々ありましたが、1日目の反省を2日目に行かせたことも多く、無事に2日間売り切ることができて本当に安心しました。

飲食団体として賞をとることはできませんでしたが、クラスとして展示で賞をとれた中3、高1の時よりも、個人的にはずっと充実した文化祭期間を過ごすことができたように思います。私は毎年、体育祭は本気で取り組む一方で文化祭はやることがなくて、暇だなくらいに思っていたのですが、今年は自分から参加していくことができいい経験になったので、嫌がっていたHR計画委員ですが、今となってはやってよかったと心から思います。協力してくれたクラスのみんな、意見を下さって手伝ってくださった香川先生、そして頼ってばかりになってしまいましたが文句を言わず頑張ってくれたもう一人の計画委員のLさんに感謝しています。本当に充実した文化祭でした！！



(A組 SAさん)

今年の文化祭は今までの行事の中で一番思い出に残った行事になったと思います。

文化祭実行委員として参加する側から作り上げる側になってみて人を動かすこと、大きなシステムの中の一員として働くことについて少し学べたかと思います。やっぱり実行する側に立ってみて初めてその大変さを実感することができて、他のイベントがある時にはもっと協力的になろうとより思いました。

また、システムの中にいることはあまり一人歩きして何でもかんでも好きなように変えられるわけではなく、他の部門との連携を意識した上での行動をとらなくてはいけないし、変化をもたらすにもそれは本当に少しずつやっていくしかないことが分かりました。

さらにいつも何かしらのスピーチで聞く“みなさん全員の努力・頑張りのおかげで”というのは本当に（本当に！）結局実行委員は全体を単に仕切っているだけで実際に文化祭を作り上げているのは全校生徒なんだとしみじみと実感しました。幸いいくつかトラブルはあったものの今年はすごい勢いで各飲食団体は完売して、物産展も大船とんグッズまでちゃんと完売しました。飲食スペース内の写真展、上映会も、多くのお客さんに好評で、もっとあの震災について覚えてもらえる・思い出してもらうにはどんなことをしたらよいかと、来年までもっと考えてよりレベルアップ・ブラッシュアップした企画が組めることを期待しています。

もちろん実行委員の仕事は大変でしたが、本当にやってよかったと思います。たとえ、何十回もやってきて、これからも何百回も行われる文化祭のうちの一回の一部でも、それを作り上げるのに少しでも貢献したのだと思うと本当に光栄に思います。後夜祭も大変盛り上がりビデオが上映された時は本当にいい学校にきたなとすごく思いました。先生と生徒がこんなに仲良く楽しくやっていける場所（学校）はたくさんあると思いますが、これだけ一体感があって誇りに思える学校は本当に洗足だけです。本当に先生にもみんなにも感謝感謝です！（B組 MHさん）



(B組クラス企画)



約1年かけて準備を重ねてきた今年の文化祭。本当に最高の思い出となりました。昨年クッキング部が飲食部門賞を受賞してから私の思いは真っ先に、今年の文化祭に向いていました。部長になるにあたっての所信表明も、飲食部門賞を2冠することでした。強気で大きく出た結果失敗したなど、後悔することもありましたが、そんな弱気な自分を奮い立たせ、何度にもわたる話し合いをしました。同輩一人ひとりがより良いものを作りたい、そうして思いを持っているはずなのに、思いが強すぎるあまり、衝突することもありました。そうして、決めたメニューは、パンの器のクラムチャウダー、ファルファッレ、キッシュにポトフ、そしてお菓子はパウンドケーキにキッシュ、バラのアップルパイでした。どれも例年に比べて難易度が高く、その時点ではたったの25人だった私たちに作ることができるのか、とても不安でした。半ば土壇場で決めた店名はCafé le Bonheur（幸せのカフェ）で本当に幸せな時間となるのか、ずっと心懸かりでした。しかし、やると決めたことはしっかりやり抜きたかったので、周りにそんなに急がなくてもいいと言われるぐらい早くから準備を始めました。それが功を奏したのか、夏休み中盤にはほとんど準備は終わっていました。調理は、部員が飽きるほど練習を重ね、最高の状態まで作り上げることができました。

しかし、文化祭まで1週間で切ると、やることはまだまだあり、前日は、当日うまくいくのか本当に不安でいました。そして、当日。開門と同時に学校に入り、まだ経験したことのない「当日」の朝の調理が始まりました。何とか間に合ったものの、おぼつかないまま、1日目は終了していききました。2日目は、1日目の反省をしっかり活かし、約30分も早く調理を終えることが出来ました。2日間で信じられない量の「おいしかったよ」「ごちそうさま」の声をいただき、すごく励みになりました。

楽しかった文化祭は本当にあっという間でした。迎えた閉会式。すでにやりきっていて、賞が取れなくても後悔はないと思っていました。しかし、賞の発表の瞬間は緊張で心が飛び出そうでした。「クッキング部」と呼ばれたときには、何かよくわからなくて、他人事のように拍手をしていましたが、同輩が走ってきたのを見



(C組クラス企画)

て、私たちのことなのだとようやく気づき、自然に笑顔と涙があふれました。号泣している同輩を見て、すごくうれしかったし、みんなのおかげでこの賞が取れたのだと強く思いました。頂いた楯は、2年前の時とは違った重みがありました。1年間、一緒に過ごし、至らない私を支えてくれた同輩の6人、部長として頼りない私に一生懸命ついてきてくれた後輩21人、迷惑ばかりおかけした顧問の羽生先生、玉木先生、愚痴や悩み事を聞いてくれたり、浮かれていた私を厳しく叱ってくれた家族。すべての人に感謝を伝えたいです。今が、今まで生きていた中で一番幸せです。(C組 K.Y.さん)



今年の文化祭はどうだったかと聞かれると、過去の文化祭の中で一番長く、濃厚で、そしてそれと同時に短いものだったと答えます。

美術部の文化祭の企画はほぼ、1年前、高1の秋の段階から練り始めました。企画を練り、まとめるまでは順調に進んだのですが、進級して部長という肩書を負うようになってくると、最初は張り切っていたのですが、自分が思ったように上手くいかなかったり、焦って一人でなんでも抱え込んだりして、落ち込んだりすることがよくありました。ステレオタイプだった美術部の文化祭

を一新しようという思いで、ギリギリで当日まで漕ぎつけた時の安心感は言葉では言い表せないものでした。制作期間は半年以上。後輩、同輩のサポート、そして先生方の暖かいアドバイスがなければ、成功させることはできませんでした。私は、1人で何でもやってやろうと思っていた初期のころの未熟さを思い知りました。

閉会式の発表の時、緊張で胸がいっぱいで、ふちまで水の入ったコップのように少し押されればすぐ溢れてしまいそうでした。壇上で、美術部の名前が呼ばれるのを聞いた時、一気に中1の当初、部活に入部した時から今までのことが思い出されて、心から、自分がこの部活に入って本当に良かったと思いました。今までなかなかとることのできなかった賞を、私たちの代でようやく手に入れることができ、本当に嬉しかったです。(D組 AK.さん)



(D組クラス企画)

今年の文化祭は、たくさんの人に迷惑をかけ、たくさんの人に支えられた文化祭でした。今年は、私にとって最後の文化祭だったので、中1の時から書道部一筋だった私は、今年は革命を起こそうと思っていました。それにより、過去最少の2人で、展示だけでなく、書道パフォーマンスにも挑戦しました。計画的にやればきっとできるはずだと思って臨みましたが、9月になると、多くのことが終わっていかなくて、毎日泣きそうで、寝不足で、本当に辛かったです。でも、今考えてみると、そんな日々も今年で最後で、そういう準備も含めて、洗足祭楽しかったな、と思えます。壁の装飾やパフォーマンスの紙、体験のうちは、教室の準備など、2人だけでは絶対に終わらなかったと思います。洗足祭までの1週間、毎日最終下



校まで残ってくれて、当日は開門と同時に来てくれた友達がいたからこそ、成功したのだと思います。感謝してもしきれません。また、パフォーマンスの方も本当に大変でした。洗足祭前日にリハーサルをしたものの、音楽が終わっても字を書いている状態で、5作品中3作品は失敗してしまい、やっぱり公演にまで手を出すべきではなかったかもしれないとまで考えてしまいました。

洗足祭1日目の朝は、本当に憂鬱で、学校に行きたくなかったです。1日目で対策を練ったので、本当に成功するかわからない状態でしたが、高3の先輩方の助けもあって、1日目のパフォーマンスは自分たちの中では大

成功でした。しかし、そこで運を使い果たしたのか、書道部が控室の鍵を壊す原因を作ってしまう、それにより、実行委員、先生、合唱部にとても迷惑をかけてしまいました。1日目の夜は、公演は成功したけど、たくさんの人に迷惑をかけてしまい、後悔して、ずっと引きずっていましたが、悔やんでもどうにもならないので、2日目は精一杯頑張ろうと思って臨みました。

2日目は、途中で雨が降ったり、筆が折れたり、紙のサイズを間違えたり、いろいろトラブル続きでしたが、なんとか終わることができました。今年是有終の美を飾りたいと思っていましたが、賞をいただくことはできませんでした。しかし、それ以上に、例年より多くの方に「涙が出ました」「頑張ってください」と言ってもらい、賞以上のものを得られたと思います。私の目標であった「革命を起こす」ことが、今年の文化祭では十分できたと思います。より多くの方の記憶の中に、書道部の展示や公演が少しでも残っていたら嬉しいです。私自身も、忘れられない文化祭になりました。

(E組 AUJさん)



(E組クラス企画)

私たち高2にとって最大の最後の行事、文化祭。今年は、準備期間に台風が来て、公演のリハーサルができなかったりと、大変なことがたくさんありました。それでも絶対成功させると決めていた今年の文化祭。前日のリハーサルは全然上手くいかなかった、当日成功するか本当に不安でした。そして当日、不安だらけのまま文化祭が始まり、クラスのクレープは大盛況で、クラスのシフトの後はついに公演本番。直前練習も思う通りに出来なくて、不安すぎました。不安が表に出てしまったのか、高2全員がピリピリしてて、それがお客さんにも伝わってしまったようでした。1日目は個人的に全然できなかったもので、2日目は絶対に1日目の失敗を成功させようとやる気満々でした。2日目の公演に向けて練習はほとんどできませんでしたが、いざ本番になるとみんな1日目とは違い、集中していて、しかも一つひとつの音に気持ちがこもっていて、とても良い演奏会になりました。私はカノンの司会で泣いてしまいましたが、私にとって弦楽合奏部は、この中高5年間を捧げてきたもので、学年でぶつかること、トップが大変だったこと、本当にたくさんの方がいました。でも、この文化祭で今までの努力が少しは報われたかなと思うことができ、今まで部活をやめたいと思うことがありましたが、続けてきて良かったと思います。今年本当に最高の文化祭でした。行事ノートもこれで終わり。今まで行事なんてまだまだあると思っていたのに、今回のように最後のページになると、最後なのか、あっという間に終わってしまったなどと思います。少しずつ勉強モードに切り替えて、第一志望の大学に受かるように頑張ります。



今年本当に最高の文化祭でした。行事ノートもこれで終わり。今まで行事なんてまだまだあると思っていたのに、今回のように最後のページになると、最後なのか、あっという間に終わってしまったなどと思います。少しずつ勉強モードに切り替えて、第一志望の大学に受かるように頑張ります。

(F組 MSさん)